



高校生、学生がイスラエル大使館に「戦争やめて」と要請

声をあげよう、ひろげよう



いま大切なことは、「戦争はしない」という声をそれぞれがあげ、広げていくことです。

シカゴでは、高校生がガザ停戦を支持する市議会決議の採択を求めてデモ行進しました。日本にも、「ジェノサイドをやめて」「誰も殺さないで」と行動している高校生や学生がいます。

自衛隊の募集案内が郵送(※)された高校生 RYUさん(奈良県・18歳)は、「若者の個人情報を自衛隊に渡さないで」と裁判に訴えています。

(※) 高校生や中学生の個人情報を自衛隊に提供する自治体が増えており、ある日突然、自衛隊からDMが届くことがあります。



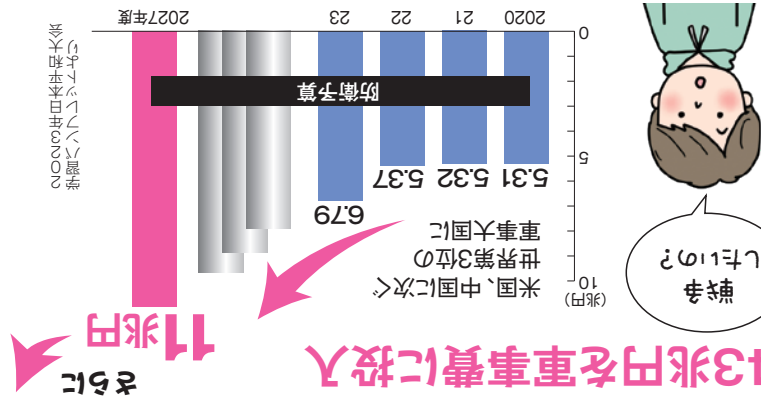
ハレスチナへの連帯を示すロンドンのデモ (写真提供: 朝日新聞)

子どもの権利・教育・文化 全国センター (子ども全国センター)

〒102-0084 東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館5F
 TEL 03-5211-0133 FAX 03-5211-0134
 HP <https://kodomo.p-web.biz/>
 Email kodomo@kodomo.p-web.biz



2024.3



日本政府は、「突然の攻撃に備えるためには敵基地攻撃能力の保有が必要」として、「専守防衛」の原則を投げ捨て、先制攻撃を行うための軍備拡大をすすめています。これまで禁止していた武器輸出まで計画しています。そのため、5年間で43兆円の予算を計上し、軍事費を倍増するとともに、海外派兵をする自衛隊を憲法に書き込んで戦争放棄の原則をなくすようにしようとしています。

とろろが日本では... 5年間で43兆円を軍事費に投入



日本国憲法 第二章 戦争の放棄
 第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
 ② 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

ウクライナでもガザでも無差別の攻撃が続き、多くの民間人、子どもが犠牲になっており、「ただちに停戦」の声が世界に広がっています。どのような対立・紛争も、武力や戦争によって解決することはできません。国連憲章や不戦条約、国際人道法などは、そのことを形にしたものです。



「ウクライナもガザも即時停戦!」